

目的

- 歴史や文化を尊重し環境に配慮した生活空間を希求する社会的要請
 - 「埋蔵文化財行政の推進による地域づくり・ひとづくり」の方向性(文化庁)
 - サッポロさとらんど内に保存されている縄文文化の遺跡(H508遺跡:通称「丘珠縄文遺跡」)を活用した遺跡公園の整備
- ↓
- ★札幌の縄文文化の魅力を発信するとともに、地域の歴史・文化・教育資源として、遺跡の価値を将来に伝えていきます

位置付け

まちづくりの長期計画「札幌市まちづくり戦略ビジョン」(平成25～34年度)

中期実施計画「第3次札幌新まちづくり計画」(平成23～26年度)

政策目標5「市民が創る自治と文化の街」
重点課題2「多彩な文化芸術とスポーツを楽しむ健康づくりを推進するまちづくり」
施策「市民が多彩な文化芸術に親しむとともに、自ら作り上げる文化活動の振興」

「(仮称)古代の里」の整備

「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本構想

※「H508遺跡」→通称「丘珠縄文遺跡」(わかりやすく、親しみやすい呼び名に)

策定に至る経緯

●基本構想検討委員会

- 平成24年度 委員会設置(委員14名:有識者、公募市民等) 委員会5回開催(内、専門部会1回)
- 平成25年度 委員会6回開催(内、専門部会2回)

●市民参加、市民意見の集約

- 平成25年度 市民参加による確認調査の実施
- 発掘調査市民ボランティア延べ168名参加
- 発掘調査市民ボランティア意見交換会(ワークショップ)
- 遺跡公園市民アンケート(146名)



市民ボランティアによる確認調査

●情報の発信

- 平成23年度 公開シンポジウム「遺跡の保存と整備活用」 出前展示(さとらんど)、企画展(埋蔵文化財センター)
- 平成24年度 講演会「縄文文化と札幌の遺跡」 出前展示(さとらんど)、企画展(埋蔵文化財センター)
- 平成25年度 講演会「遺跡公園の活用を考える」 遺跡見学会、中高生体験発掘、確認調査現地見学 出前展示(さとらんど)、企画展(埋蔵文化財センター)



市民ボランティア意見交換会

丘珠縄文遺跡の概要

【遺跡の特徴】市内の他の縄文文化の遺跡との比較に基づき、丘珠縄文遺跡の特徴を4つのキーワードに整理しました。

- ★ **広い** 市内最大級の約25,000㎡の広さを有する縄文晩期(約2300年前)の遺跡
 - ★ **低い** 市内では数少ない沖積平野の低地部に立地する縄文遺跡(縄文晩期の地層の標高は3m前後)
 - ★ **多い** 縄文晩期の複数の地層(遺物包含層)から、炉跡19カ所や土器・石器等2,900点程が出土
 - ★ **貴重** 市内の縄文遺跡で唯一ヒ工属の種子発見
- その他にも、炉跡周囲の土壌からサケ科等の魚骨片、チョウザメ科の鱗板片、動物(哺乳綱)の骨片、クルミ属の内果皮片等の生業や食生活に関する貴重な資料を発見

【遺跡の価値】

- ★ 狩猟・漁撈・採集などを目的とした季節的な生業活動が繰り返された遺跡
- ★ 縄文晩期から続縄文文化、擦文文化へと続く札幌の低地部でのくらしぶりの原形を示し、縄文文化から続く札幌の歴史を示す代表的な遺跡のひとつ
- ★ 低地部での具体的なくらしぶりを知ることができる学術的にも魅力的な遺跡



炉跡から見つかったヒ工属種子 (顕微鏡拡大写真)

遺跡公園のテーマ

『川辺に広がる札幌の縄文、その「食文化」をはじめとする縄文の体感』

整備の基本方針・方向性

基本方針1 札幌の縄文遺跡の魅力発信に向けたH508遺跡の整備

- 方向性① 「札幌の縄文」を発信します
- 方向性② 縄文遺跡であるH508遺跡を適切に保存するとともに、遺跡の価値を継続的に探求・発信します

基本方針2 縄文文化の体験と学びの展開

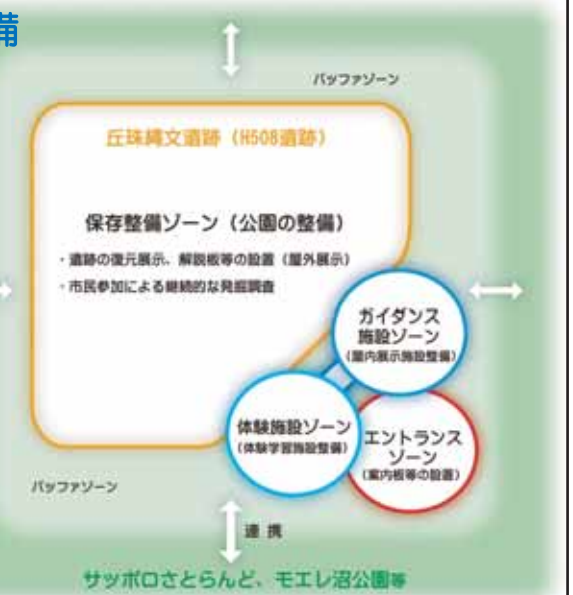
- 方向性① 縄文文化を体験できる活動を展開します
- 方向性② 縄文文化の学びの導入としてガイダンス施設を設置します

基本方針3 市民との協働による遺跡の活用

- 方向性① 遺跡の整備と活用・運営を市民との協働で進めます
- 方向性② 地域に根ざした施設づくりを目指します

基本方針4 「学び」のネットワークづくりと市民交流の場の創出

- 方向性① 「学び」のネットワークづくりを進めます
- 方向性② 市民交流の場を創出します



今後の計画

